麻酔科医；一隅を照らす（出典；麻酔 Vol.72 No.3 P199）

諸先輩方、同僚の仲間達、後輩の皆さんのご指導と支えの中で、約23年の麻酔科医生活を送り、2022年4月から京都大学医学部附属病院麻酔科の一員となる機会を得ました。今までの全ての職場でもそうだったように、京大麻酔科でも、たくさんの良い先生達に出会い、そして支えてもらいながら、日々を過ごしています。本当にありがたいことです。

京都といえば寺社仏閣ですが、私が想像したよりも本当に沢山あります。通勤はもちろん、散歩、買い物などちょっとしたお出かけの中で非常に素晴らしい文化に触れることができます。春は桜が美しく、夏は新緑が映え、季節が廻った秋の紅葉は圧巻です。そういえば、先日とあるお寺を訪れた時に、“一隅を照らす”という言葉が掲げてありました。

この“一隅を照らす”という言葉に最初に触れたのは、小学校 5 年生のときにボーイスカウトに参加した時でした。僕が所属していたボーイスカウトの隊長は、西本願寺の流れをくむお寺の住職であり、ボーイスカウト活動をしながら時々住職である隊長の説法を聞いておりました。その中で出てきたのがこの“一隅を照らす”です。

“一隅を照らす”は、天台宗を開かれた最澄さんが書かれた『山家学生式』の冒頭にあります。仏教用語なので様々な解釈がありますし、あくまで、僕自身が伝え聞いたことや自分の解釈ではありますが、『一隅』とは、家庭や職場など自分自身がいる場所、『照らす』とは、精一杯努力し、明るく光り輝くことと理解しております。

一人一人が、それぞれの場所（家庭・職場など）で明るく輝くことで、全体が明るく照らされ、自分のためだけではなく、周囲に幸せにし、皆を幸せにすることができると教わりました。そして、このように“一隅を照らす人”は、「人の心の痛みがわかる人」「人の喜びが素直に喜べる人」「人に対して優しさや思いやりがもてる心豊かな人」であり、素晴らしいことであると伝えられました。

手術室は麻酔科医の仕事場の一つですが、各科の外科の先生方、術前の評価や診療している各科の先生方、看護師さんや臨床工学技士、薬剤師さん、いつも手術室を綺麗にしてくださる皆様、など、多くの方々の協力と連携の中でその仕事が成立しています。

どんな職でもどんな場所でも、自ら進んで、与えられた持ち場や役割を誠実に務めるリーダー（指導的人格者）すなわち“一隅を照らす人”が必要です。子供の頃にエンジニアになりたかった私は、色々な出会いや出来事に導かれて麻酔科医・集中治療医になりました。紆余曲折の中でたどり着いた麻酔科医という役割は、やはり手術部のリーダー、そして、周術期におけるリーダーであってほしいと思います。そして、そのためには、先は遠くとも、僕自身も少しでも“一隅を照らす人”に近づきたいと思います。

様々な施設で研修するなかで、居場所を大切にすること、思いやりと助け合いの気持ちを持つ事、お互い様の気持ちを持って臨むことを何度も何度も伝えられてきました。翻ってみれば、10 歳の頃に聞いたボースカウトの隊長の言葉である“一隅を照らす”に通じます。

Anesthesiologist；Let us brighten the world at our corner

今まで頂いたご指導やご支援と共に働く皆さんへの感謝を込めて。